



運動会当日の様子【フットサル】

Close up #01 ツウリズム運動会

前期の総集編としての今号は、今年入ってきた学部3年生から上はOB.OG, 先生までが参加するツウリズムコースの一大行事「ツウリズム運動会」の様をお伝えします。毎年領域対抗で行われる運動会。領域内の団結力が試されます。ツウリズム関係者が一堂に会するこの運動会は学年の壁を超えて交流の場となっています。果たして今年とはどんな結末となったのでしょうか。



▲借りモノ競争の様子

この運動会にも留学生が多数参加しました。英語の苦手な人でも、スポーツを通してなら簡単に気持ちを通じる。そんな一幕もありました。

(大学院2年 友森 宏樹)

文化領域は百戦錬磨の名将、賀の采配が光った。特にフットサルでは、ベテランの川原先生と若手の国内組、さらにはインドネシアからの助っ人のニコさんの強力な個が上手く融合し連覇を達成。今後の躍進を期待させるゲームとなった。

連覇を達成

運動会のエピソードを聞きました

運動会の感想は？
運動会の始まり、皆の士気を上げる選手宣誓を行ってくれたのは学部3年の小林君でした。
選手宣誓の感想
選手宣誓は緊張した。先輩と協力してやる競技などがあり、自然と絡むきっかけとなって良かった。3年生の授業お会いできない先生ともお話しできたので良かった。
(学部3年 小林 憲太)



▲選手宣誓の様子

お疲れ様でした！

五月のことになります。運動会お疲れ様でした！企画者の皆様ありがとうございます。B3のレベゼン体育会系女子としてツウリズムのみなさんと、爆発的に楽しい時間をすごせました。これからもいい汗流しましょう！
(学部4年 小向 光)

結果は……？

今回は最後の最後まで結果の分からない拮抗した争いとなりましたが、最終競技のリレーで断トツの1位を取めた「文化チーム」が優勝をつかみました。(昨年度に続き2年連続)

最優秀選手賞には最少人数でありながら最後まで戦った「情報チーム」から、学部4年の前さんが選ばれました。

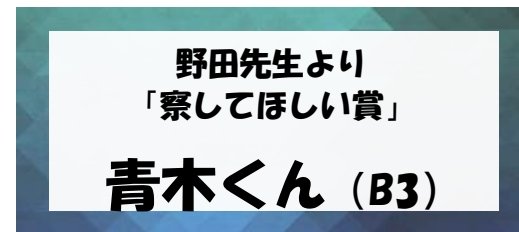
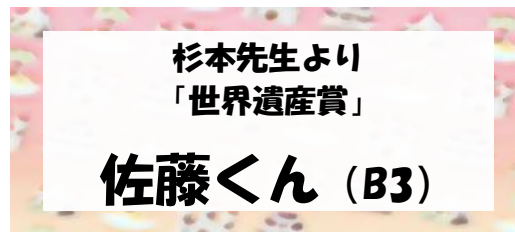
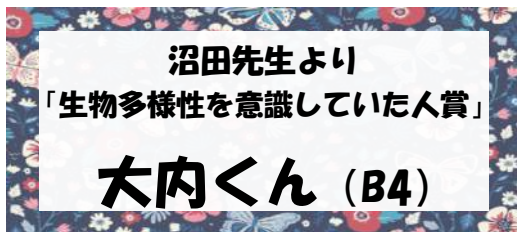
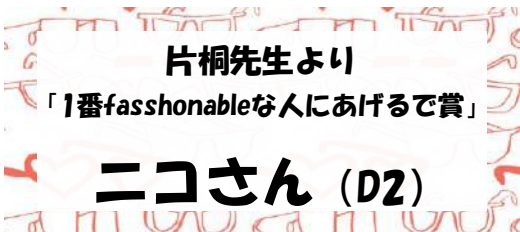
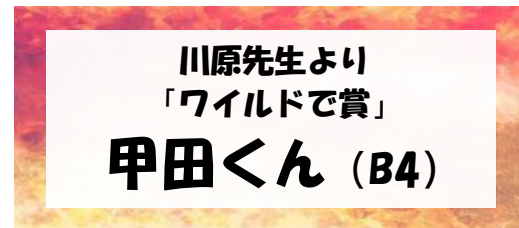
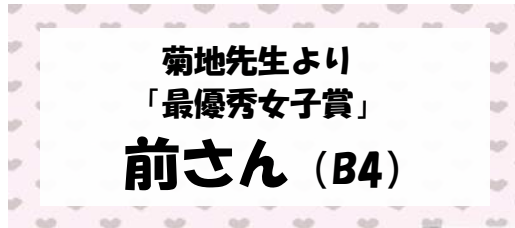
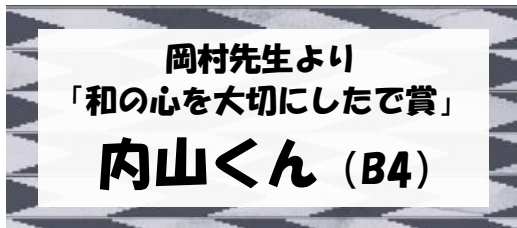
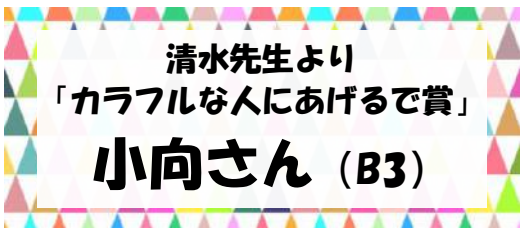
OBもフル出場出場者全員で頑張った情報チームですが最後は温かい拍手で包まれました。

ここ数年優勝から遠ざかっている「自然チーム」には来年期待です。

PROGRAM

- ・開会式
- ・ボール運びリレー
- ・玉入れ
- ・障害物走
- ・フットサル
- ・借りモノ競争
- ・リレー
- ・閉会式

↓先生方からの特別賞↓



はちおうじ学生ガーデンに参加しました！

八王子市では平成29年9月16日から10月15日までの1か月間、「全国都市緑化はちおうじフェア」が開催されました。本観光科学域では、川原研究室を中心とした有志のメンバーがこの緑化フェア内の学生参加企画「八王子学生ガーデン『Mac hinawa』」に参加しました。

八王子市が抱える都市問題と向き合うことをテーマとした本企画に対し、学生たちは八王子市の空き地問題に着目。まちの中に放置された空き地を人々が親しみを持って集まれる場所に変えたいという思いで、話し合いを繰り返し、コンセプトガーデンづくりに取り組みました。

首都大チームがガーデンにつけたタイトルは「たま・ば・こ」。「たいせつな「まちの空き地を」「手をかけず」「花と緑の」「コミュニティスペース」という意味がこめられています。フェア開催期間中にはガーデン内の3種類の仕掛けを交え、体験ワークショップも実施しました。

設計や施工、植物の栽培にいたるまで一から携わったことで、緑を利用したまちづくりについて多くを学ぶことができました。

編集後記

平成29年度最初のツーリズムマガジンですが、発行が平成30年になってしまいました…。非常に遅くなってしまい本当にすみません！

前期前半は運動会や野外実習、そしてPBLなどイベントや授業が盛りだくさんでした。新入生の方にとっては特にチャレンジングな時期だったかもしれません。でもこうした行事を通して、協力し合える仲間を見つけたり、今まで知らなかった知識や考え方に触れることができたという方も多いのではないのでしょうか。

次のツーマガも気長にお待ちいただければ幸いです。



春、M1は高尾山へ

平成29年度の5月初めには修士学生向けの野外実習が開講され、9人のM1が菊地先生とともに高尾山に登りました。うららかな日差しの中ゆつくりと山頂を目指しつつ高尾山の自然の特徴について様々なことを学ぶことができました。ゴールデンウィークということもあって非常に混雑しており、自然資源のオーバーユースを考える良いきっかけにもなりました。